

三脚の選び方

基礎編



三脚を使って撮影しよう

カメラが被写体に対して水平になっているように注意しましょう。多少のズレは、レタッチソフトを利用して水平に戻せますが、画質が落ちてしましますので、できるだけ水平になるよう注意しましょう。

三脚はカメラに合った物を利用しましょう。

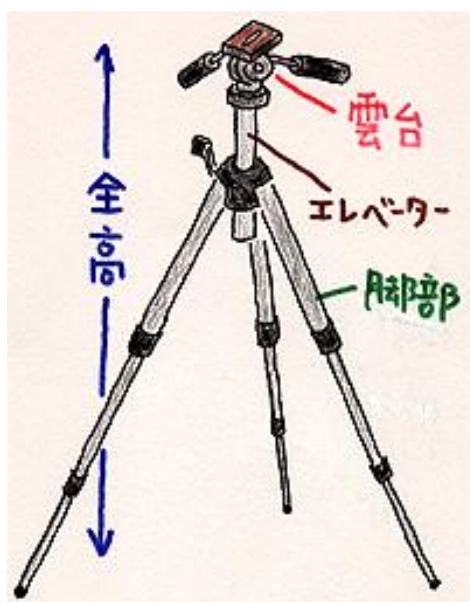
コンパクトなデジカメであれば、コンパクトな三脚でも大丈夫ですが、2400万画素以上の大きく重いカメラでは、三脚もしっかりした物を使用しましょう。右の写真は、講師が使用している三脚です。

カメラバックの中には、必ずコンパクトデジタルカメラ用の一番小さな三脚を入れて持ち歩いています。また、花や風景の撮影には、真ん中の三脚を使うようにしています。

どんな写真を写す場合でも、三脚を使用することで手ぶれを防ぐだけでなく、落ち着いて被写体を観察することができるようになります。そして、写真を通じて写したかった物が整理できます。特に、圧倒されるような美しさに出会ったとき、どの部分を切り取ればいいのかわからなくなってしまうのです。そんなとき、三脚にカメラをつけて落ち着いて撮影することが、いい写真を写すことにつながります。

三脚の選び方

三脚は、丈夫でがたつきがなく、ある程度の重さがあるものの方が、カメラをより安定してセットできます。しかし、理想を求めるほど、高価になります。コンパクトデジタルカメラの場合であれば、価格帯でいうなら、5000円程度のもので十分でしょう。購入時の注目点をイラストで示します。予算の都合に合わせてお求めになってください。



●雲台(うんだい)

カメラ位置を微妙に調整できる「2ウェイ」または「3ウェイ」と呼ばれるタイプがおすすめです。2ウェイはレバーが1本。3ウェイはレバーが2本あります。イラストは3ウェイタイプです。

●エレベーター

安価な三脚にはついていないタイプもありますが、三脚の「脚」の部分はそのままでカメラの高さの調整ができるので便利です。

●三脚部

結局は慣れの問題ですが、操作性が良いものを選んでください。実物を触れるならしっかりしているタイプを選択します。

●全高

三脚とエレベーターを最大に伸ばした高さを全高といい、1.5m程度(カメラを胸の位置にセットできる高さ)は欲しいところです。

ミラーレスカメラや一眼レフカメラの場合

コンパクトカメラと違ってカメラ本体と使用するレンズを合わせた総重量を支えることが必要となります。三脚のプライスカードや説明に耐荷重が書かれています。(記載されていない場合は、それはあまりおすすめできないものです)。ミラーレスカメラはかなり軽くなりましたが、それでも超望遠レンズをつけるとそれなりの重さになります。

店頭で購入する場合であれば、まず、脚をすべて伸ばして一番高い状態にします。このときチェックするのは、脚を引き伸ばして止める際にしっかりと止めることができいか、また緩みにくいが、調整がしやすいか。などを合わせて確認しましょう。

大きく広げた状態で、エレベーターは一番低い位置のまま、上から手で軽く押します。この状態で軽く押して揺れたり脚が動くようであれば、かなり強度は低いといえます。コンデジ程度は使えますがミラーレスやデジタル一眼での使用はあまりおすすめしません。重い三脚は持ち歩きしにくいですが強度はあるものが多いです。最近は軽くても強い素材が使われています。重さについては別の方で加味することが出来ますので、まずは耐荷重と強度に重点的に確認するといいでしょう。

入門用の三脚 ベルボン ファミリー三脚

3段「EX-630 II HE」 段数：3段

質量：1700g

推奨積載質量：3kg (脚最大荷重 5kg)

雲台：一体型、雲台分離不可



多くの人が初めて買う対応の三脚です

このタイプは設置するのが簡単なのですが、脚を3本一緒に広げることしか出来ないので、段差がある場合や低く構えたい時に使えません。

一步進んだ三脚 ベルボン 中型アルミ三脚

4段「シェルパ 545III N」SHR545-3N

質量：1880g

推奨積載質量：2.5kg (脚最大荷重 6kg)

雲台：PHD-55D (分離可能)

三段開脚：可能



この三脚のように3本の脚の間に支えるものがない場合は、3本の脚の角度を変えて設置することができます。また、雲台も交換できますし、センター棒の下部を回して外すことで、低いものを撮影するときの使用できます。

同じように見える三脚ですが、実際にはずいぶん機能的に違ってきます。

ただ、これほど大きなものを持って移動するのはしんどい。それが本音ですね。

耐荷重は低いですが、最近のもう一つの流れがシューティンググリップタイプの小型三脚です。

小型三脚・シューディンググリップ

VLOG が注目されてから、各社がオリジナルのものを出すようになりましたが、SONY はビデオカメラ用として 2013 年から GP-VPT1 を販売しています。このグリップはビデオカメラとマルチ端子に対応したケーブルで接続して、ズームや録画、静止画の撮影を行えます。

実は、SONY のデジカメはコンパクトカメラからフルサイズミラーレスカメラまで、このマルチ端子があり、ほぼどのカメラでも使用できます。また、WIFI やブルーツースでの接続ではないのがポイントです。最新のカメラの場合はブルーツースでの接続が可能となりシューディンググリップもブルーツースでの接続となっています。



ソニー 三脚機能付きシューディンググリップ「GP-VPT1」 SONY
GP-VPT1



ソニー 三脚機能付きシューディンググリップ「VCT-SGR1」 VCT-SGR1



このタイプの小型三脚は VLOG に対応して開発されていますので、1 本で旅先などで動画も写真も撮影する場合に安定して持つことが出来るというメリットがあります。

←SONY ワイヤレスシューディンググリップ/三脚(ブラック) GP-VPT3B

質量 (約) : 179g

最大負荷 (約) : 1.5kg



角度調整ボタンを押しながら前に90度、後ろに80度、
お好みのアングルに傾けられます



回転ボタンを押すだけでカメラの方向を切り換えられます

一脚・その他



ベルボン 多機能ポッド ポールポッドEX Velbon
ホーリング EX



ベルボン 5段一脚「EXUP-53」 Velbon
EXUP-53

一脚も多機能なものが増えました。以前は、右側の様に自由雲台か固定かの選択でしたが、自立できるものが増えました。ただ、自立できますが手を添えて持つ必要があります。

自立するタイプの多くは、雲台と石突部分の三脚を取り外して使うことが出来ます。取り外した雲台と三脚部分を合わせるとミニ三脚としても使えます。

三脚を広げるだけの場所が確保できない場合などに重宝します。

ミニ三脚

コンパクトカメラで旅行用によく使われたタイプが左側ですね。今は、スマートフォンなどを取り付けるアタッチメントが各種用意されたものが多く見られます。

また、ブルーツースリモコン等も用意されてスマートフォンでの撮影に活用できます。

前述のシューティンググリップ的な使い方も出来るのが多数あります。

ミニ三脚やシューティンググリップは、カメラを置いて使うだけでなく、それを取り付けてカメラを持つことで脇が締まって、腕が安定し楽な姿勢でカメラを構えることで手ぶれが減ります。是非ご自身でカメラに合った使いやすいものを見つけ出してみて下さい。

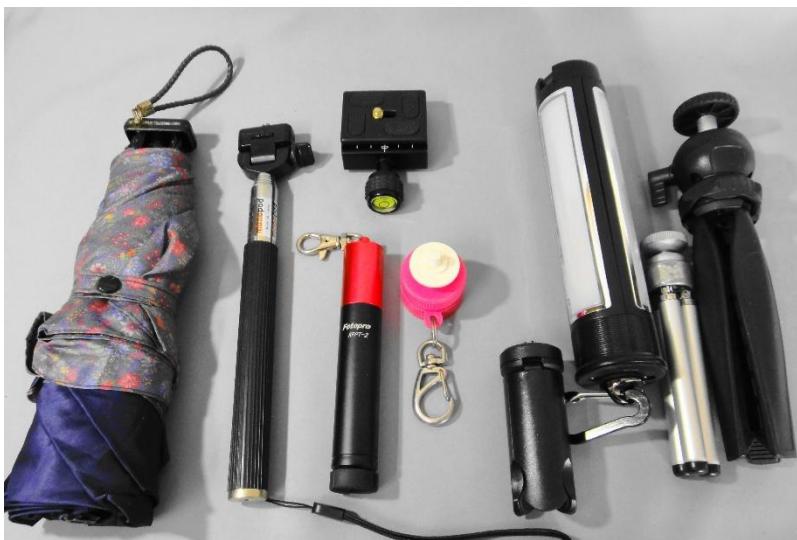


ハクバ 小型三脚 コンパクトC8N（ガンメタリック） HAKUBA
H-C8N-GM



ベルボン Coleman セルフィーグリップスタンド
(ブラック) Velbon
CVEPSGS

三脚のようなもの



左の写真に写っているものは、三脚や一脚として利用できるものです。

カメラの底にある三脚用のネギ穴は、昔から規格が統一されていてフィルム時代から変わっていません。

三脚自体は日本と欧米で規格が違うことがあります。それ用のアダプターも販売されています。

・折りたたみ傘

折りたたみ傘の石突の部分のネジは、三脚ネジと共に通です。

・自撮り棒

自撮り棒については、基本的にスマートフォンで使用するのが目的で作られていますので、重いものは使用できません。ただし、自立させないのであれば応用的な使い方が出来ます。

・ピンクのキャップ

もうあまり見かけなくなったのですが、ペットボトルの蓋に三脚ネジが付いています。ペットボトルに水などが入っていれば安定した代用品となります。



・LED ランタン照明

このランタン照明のそこのネジも三脚ネジと共に通です。付属のミニ三脚でなくカメラ用の三脚にも取り付けることが出来ますので、撮影時の照明、災害時の照明などに使えます。LED 照明を購入する際には、三脚に対応しているかを考慮するのも大切かと思います。

・アルカスイス 雲台・プレート

多くの三脚にはクイックシューが採用されていますが、シューの形状はそれぞれ違う場合があるので、複数の三脚で使用しづらい事があります。動画撮影の現場でよく使われているアルカスイス雲台とプレートは企画が統一されていますので、プレートをつけたまま、複数の雲台を使用することが出来ます。



カメラの底部保護を兼ねたグリップ

三脚を使い始めると、カメラの底部に擦り傷がどうしても付いてしまいます。

査定では使用に伴う傷として扱われて減点されます。

また、ミラーレスカメラは小さく軽くなったのでそれは大きなメリットではあるのですが、それ故にカメラを握ったとき小さすぎて安定しない、どこか落ち着かないという感覚になることがあります。

この2つの問題を解決するのが、カメラケージもしくはカメラアンダープレート、カメラグリップなどと呼ばれるものです。

カメラメーカーからも純正品が販売されていることが多いです。

購入時に確認すべき事は、それらをつけた状態で、バッテリーやメモリーの交換が行えるのかどうかです、通販サイトでは、機種ごとに様々なものが販売されていますが、よく見るとバッテリーやメモリーが取り出せないものも多くあります。純正品についても考慮されていない場合がありますのでこれが出来ないと、持ちやすいけど使いづらくなります。



←SONY α 7 C 用グリップエクステンション GP-X2

●カメラのグリップを縦方向に拡張し、グリップを握ったときの指の収まりを良くしてホールド性をアップ

●三脚取付け、バッテリー交換可能な構造

●対応機種：α 7CR ／ α 7C II （α 7CR に同梱されています）

希望小売価格 22,000円(税込)

↓NEEWER CA131 カメラベースプレート a7C II/a7CR 用 定価¥4,299

商品詳細



↓SmallRig カメラケージ

ケージは、カメラ全体を囲むような形とL型にようなものがあります。



Sony A7Cカメラ用のサイドシリコン
グリップ付きケージ

9,499イエン

ソニーA7C用のケージ

7,390イエン

どちらもアルカスイスの形状の底盤ですので、アルカスイス雲台との脱着が簡単です。